

Por um futuro melhor

どの子の未来も明るくなりますように！

ブラジル通信 No.4 2018.10.16



9月28日(金) パラナ州教育技術イベント「Evento de tecnologia educacional」参加(クリチバ番外編)

○今年で3年目になるパラナ州教育局主催のイベントに参加。

- ・9月26日～28日の3日間開催
- ・パラナ州以外の人を呼んで開催するのは今年が初めてで、18の州と海外(チリ・アメリカ)からの参加者があった。
- ・主に理科や算数、プログラミングに関する展示や体験
- ・先生方が自作の教材などの展示発表をするブース(約200)

右の写真は人体の学習で、腎臓や肺、心臓、腸などの仕組みを教えるための自作教材です。チューブに注射器をつなげて、静脈や動脈の血液が流れる仕組みを再現していました。とても面白く、日本で参考にして作ってみたいです。



Obrigada!! (ありがとう) 歌の街:マリンガ市 研修報告(10/2~8) その1

マリンガ市は、市制71年目を迎えた人口約40万人のパラナ州第3の都市です。イタリアやドイツ、日本からの移民が多く、日系人は約3万人と言われています。出稼ぎで日本に行く人が増えて、7%いた日系人が5%まで減ったとも聞きました。「Cidade verde(グリーン・シティ)」とも呼ばれ、緑が多く(市民4人に対して木が1本)、木のトンネルをくぐるような道が多くありました。⇒



そして、町のあちらこちらで、「ベンチビー、ベンチビー」という鳴き声が聞こえます。この声の持ち主は、「ベンチビー」という名前の鳥で、ポルトガル語で「Bem te vi」と書き、「あなたに会えてよかった」という意味だそうです。素敵な名前の鳥ですね!! (この写真はネットからお借りしました。)

マリンガ市のシンボル、高さ124mの円錐形をした大聖堂(Catedral Nossa Senhora da Glória)は、より神の世界に近づきたいという思いを込めて、1959年から13年の年月をかけて建てられました。南米で一番背の高い教会だそうです。私が訪れた10月はピンクリボン月間だったので、ピンクの大聖堂が夜空に浮かび上がっていました。



マリンガでは、レストランでオメガドライブの(古い!!)カルロス・トシキさんの兄(弟かも!!)に会いました。加古川マリンガ日本語センターでは、三都主アレサンドロの子どもたち(4人兄弟)にも会いました! 一番上のお兄ちゃんが「おじいちゃんやおばあちゃんと話せなくなると困るから日本語を勉強しています」と話してくれました。(←写真左が三都主アレサンドロの4人兄弟の末っ子)

10月2日(火) マリンガ市役所・教育局訪問「交通安全教室の卒業式!？」

○マリンガ市役所にて副市長(Edson Scabora)を表敬

○教育局長(Valkiria Trindade A. Santos)も同席(写真右から2番目)教育局長から、マリンガ市の教育のレベルの高さや研修の義務などについて話を伺いました。その後、「交通安全教室」の卒業式があるということで、急いで教育局長とともに会場へ向かいました。いきなり壇上に上がるように促され、「修了証」のようなものを代表の子どもに渡さしてもらいました。この卒業式のおかげで市長さん(写真左端)にも会うこともできたので良かったです。多くの子どもたちに抱きつかれるほど市長さんは好かれていました。



Por um futuro melhor

どの子の未来も明るくなりますように！

フラジル通信 No.5 2018.10.16



Todo Bem? (元気ですか?) 歌の街: マリンガ市 研修報告(10/2~8) その2

10月3日(水) マリンガ市教育局訪問 「靴や靴下まで無償!？」

※教育局で全日制を担当しているシルヴァーナさんからの聞き取り

【マリンガ市教育局の管轄している公立学校】

- ・0~5歳(CMEI=Centro Municipal Education Infantil) 63校
- ・6~11歳(EM=Escola Municipal) 52校

合計 115校 (39,000人)

- 1日に給食を80,000食提供。
- 食物アレルギーのある2,500人のうち、2,000人に特別食を準備している。
- 給食は、二部制(午前または午後)の学校には2食、全日制の学校には4食を提供。
- 現在115校中36校が全日制だが、マリンガ市長は、すべての学校を全日制にしたいと考えている。しかし、全員に4食の給食を無償で提供するとなると莫大な費用がかかり、市民の負担が増える可能性があるため教育局としては反対。
- マリンガ市の学校のレベルは高い。100点中の70点。
パラナヴァイ市は、53点。(IDEBの結果:おそらく日本の全国学力・学習状況調査と同じもの)
- マリンガ市では、どの職業も研修を受ける義務があり、受けなければ首になることもある。その研修費は、30%は国が出し、70%は市が出さなければならない。
- 4,000人に対して20時間(=総合計8万時間)の教員研修を行う。
すべて市の教育局で行う。

★公立はすべて無料というのは知っていたが、教科書だけでなく、給食費・制服(体操服)・靴・靴下・かばんなど、とにかくすべて無料で支給され、教材費等も含め、子どもからお金を徴収することはない。

★市のプロジェクトとして、平成31年度には、4年生の子ども1人につき1台のPCが導入される。3000~4000台の費用はすべて国が負担する。

★7年前くらいから親からのクレームが急激に増えている。

★マリンガの子は本が読めないので、2009年から本を読む時間を朝10分間、週に2~3回設定するようになった。

★先生の異動は希望者のみ。希望がなければずっとその学校で働くことができる。驚きです!!



教育局のコーディネーターの方々と

【見学した教育局内の事務局】

- ① 予算・給食管理・教育評議会運営
- ② 学籍・転出入
- ③ コンピュータ管理・メンテナンス
- ④ 制服・ノート・靴・靴下などの管理
※かばんの支給を再開。
※今年から制服の色が緑色から青色に。
※スカート付きの半ズボンも作成
- ⑤ 研修修了証明書発行(4,000人分を管理)
- ⑥ CMEI部(0~5歳)
- ⑦ 高等部(12~18歳・18歳以上)
- ⑧ 初等部(先生方を指導する人たち)
- ⑨ いすや机の管理室



市から支給される靴

10月3日(水) マリンガ市立 PIVENI PIASSI MORAES 学校訪問 「特別支援学級の体制は？」

○Rosana Gimenes de Carvalho Araujo 校長先生の案内

○特別支援学級担当 ジェイザ先生と面談

・2008年 国の法律が変わり、特別支援学級の子どもは、通常学級に全員が所属し、通級の形で支援学級に通うことになった。(※すべての子どもが平等に教育を受ける権利があるという考え方)

・2010年 マリンガ市も国の方針を受け、変更。

※体制としては、補助の先生が子どもにつき、通常学級でその子が理解できる範囲で授業を受ける。

※1週間に2回程度支援学級教室に通い、その子にあった支援活動を行う。

※登録は1年ごとに親が行う。教育局に行き、学校への登録と支援学級への登録を行う。

※居住区ではなく、障害の種別によって、行く学校が決まっている。

※担当のジェイザ先生は、もう少し通級の時間を増やしたいと考えている。その子の自立のためには、通常の授業ではなく、その子の成長や特徴にあった指導をすべきではないかと自分の考えを述べたが、「国で決まっていることなので」と言っていた。

Por um futuro melhor

どの子の未来も明るくなりますように！

フラジル通信 No.6 2018.10.16



Muito Prazer! (はじめまして!) ※ふだんは「Prazer!」と言うことの方が多いです。

歌の街: マリンガ市 研修報告(10/2~8) その3

10月4日(木) 公立保育園 CMEI(WINFRED ETHEL NETTO)訪問 「家で食事をしない子が80%!」

★Tatiana Oliveira de Andrade Cremones 校長先生の案内

【組織】

- Director (校長先生)
- Supervisor (スーパーヴィゾール)
※各校に1人配置(先生方への指導・助言・教育局の方針を伝える・勤務形態を決める)
- Orientador (オリエントアドル)
- Secretária (セクレタリア:事務)
※この学校で行われる全ての活動をこの4役で話し合っ決めて。
※校長は、1か月に1回レポート教育局へ提出し、指導を受ける。

【教師の持ち時間数について】

- CMEI (保育園) には、先生 (Professor: 大学を出た人) と教育者 (Educador: 大学は出ていない人) がいる。
- 先生は1日20時間勤務。別の学校へ行って勤務できるようにするため。
- 教育者は1週間30時間(そのうち10時間は、準備や研修の時間に充てる)
※10時間の中で、総合的な学習のような1つのプロジェクトを決めて、子どもたちが多くの体験をしながら学ぶ学習を計画し、実践する。

【給食】1日4回

- ①8:00(朝食) ②10:30(昼食)
- ③13:30(軽食) ④15:30(夕食)
- 市内全部同じメニュー(学校内で作る・食材は配給され、使用状況を管理している)
- この学校では、家で1食も食べない子供が80%いる。マリンガでの中心部では0%。
- 学校間格差が大きい。
- 食物アレルギーへの対応もしている。一覧表があった。



【先生方にいつも伝えている校長先生の思い】

- 子どものためになることをやりましょう。
- 子どもの声をよく聴きましょう。
- この地域にあった方法を考えて実行しましょう。

校長先生に、「難しい地域で、先生方が子どものために誠意を尽くしてがんばっていることがよくわかりました。この地域のレベルの向上が、マリンガ市、ブラジルの教育力の底上げになると思います。簡単なことではないですが、がんばってください。」とお伝えした。校長先生は、涙を流されていたので、よほど日々苦勞されているのだと思いました。



10月5日(金)・8日(月) 私立学校(サンフランシスコシャビエル学校)訪問 「ここは進学塾!？」

合格した生徒の大きな顔写真付きで大学名と成績が書かれたポスターが、学校の外側の壁にずらっと貼ってあり、どこかの有名進学塾のようでした。

【Eliza Mitie Shiozaki 校長先生に成果を上げた秘訣を聞いてみました!!】

- ①長時間かけて家庭の協力を得られるようになったこと
※親が学校を信頼しているのでクレームは一つもないそうです。
- ②先生の質を向上させること
- ③何でもチーム・組織で動くこと
- ④秘書 (Secretária: 事務局) は学校の顔。これが重要。
※先生・保護者・来客などと学校をつなぐ人。この人次第。とても大切に考えている。
- ⑤そして、何より、この仕事が好き。自分の人生そのもの。毎日が楽しい!!
やりたいことが次から次へと出てきて、それを考えるとワクワクする。



【校長先生として大切にしていること】

- ★子どものためにみんなで意見を出し合い、よりよくするための会議をすることが大切。
- ★先生提案のプロジェクトは、どんなものもすべて認め、ほめ、応援している。過程が大切であり、結果で判断しない。⇒それは子どもも同じですねと言ったら、同感してくれました。
- ★今は、親が何でもやってあげるしゲームでばかり遊んでいる。インターネットを使えばすぐに答えがわかる。だからこそ、考えさせる教育が大切。子どもにはやり方を教えない。受け身ではなく、自分から問題を解決する力を身につけさせることが大切。子どものどうして?を大切にしている。

この校長先生が赴任してから、この学校の進学率はとても高くなり、保護者にもとても評判のよい学校になったそうです。校長先生が校内を歩いていると、多くの子どもたちが校長先生のそばに駆け寄ってきました。壁に貼られていたポスターには賛成できませんが、校長先生の考え方には学ぶことが多かったです。